KONICA
FTA

各部の名称

①シャッターボタン
⑩シャッター速度ダイヤル
⑨レンズ取付け指標
<赤ポチ>
②ストラップ
取付け金具
KONICA
FTA
7300001
f=57mm
KONICA
HEXANON
1:1.4
⑧フラッシュ
接続ソケット
<M接点>
③セルフタイマー
レバー
⑦フラッシュ
接続ソケット
<X 接点>
④マニュアル絞りボタン
⑤ヘキサノンレンズ
⑥レンズ交換ボタン

⑪フォーカスリング
㉖距離目盛
㉕被写界深度目盛
㉔シャッター速度指標
⑫EEマーク
㉓フィルム感度表示窓
<ASA>
⑬マニュアル絞り目盛
⑭絞りリング
㉒フィルム感度表示窓
<DIN>
⑮巻きもどし
クランク
㉑フィルム
カウンター
OVERRIDE
meter
⑱オーバーライドレバー
⑯巻きもどしノブ
⑰距離基準マーク
⑬シャッター速度目盛
⑳巻き上げレバー

㉗メータースイッチ
㊶シャッター
㊴巻き取りスプール
㊷アイピース
㊵スプロケット
㊳フィルム差し込み溝
㉘巻きもどし軸
ON
OFF
㊲裏ぶた
㊱プレッシャープレート
CHECK
㉙パトローネ室
㉟巻きもどしボタン
㉝三脚ねじ
㉚裏ぶた開閉金具
㉛電源チェックボタン
㉜水銀電池室
㉞フィルムガイド

おもな性能

コニカ FTA のおもな性能

型　　　　式 : 自動露出用CdSメーター内蔵35㎜フォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ

画面サイズ : 24×36㎜

使用フィルム : 35㎜フィルム＜J135＞パトローネ入り

標準レンズ : ヘキサノンF1.2　58㎜＜６群７枚構成＞、F1.4　57㎜＜５群６枚構成＞またはF1.8　52㎜＜５群６枚構成＞至近撮影距離0.45m

マウント : バヨネット式コニカマウントⅡ型　直径47㎜　フランジバック40.5㎜

絞り機構 : 完全自動絞り＜自動全開式＞被写界深度確認用マニュアル絞り装置付

シャッター : コパルスクェアＳ　B・1〜1/1000秒　倍数系列等間隔目盛　セルフタイマー内蔵　シンクロ　ＭおよびＸ接点　Ｍ接点でＭ級全速度同調　Ｘ接点1/125秒までストロボ完全同調

ファインダー : ペンタプリズム使用のアイレベルファインダー・ピント合わせは中心部マイクロダイヤプリズムによる分散合致式
視野内メーター付

ミラー : ミラー先端垂直上昇　完全クイックリターン方式

露出調節 : 超高感度複合CdSメーターによるTTL方式＜像面中央重点測光方式＞
自動絞りレンズ—＜EEの場合＞フィルム感度、シャッター速度および交換レンズの開放Ｆ値に連動する完全EE式—＜マニュアルの場合＞フィルム感度、シャッター速度および開放Ｆ値に連動する絞り値直読式
マニュアル・プリセット絞りレンズ—フィルム感度およびシャッター速度に連動する定点合わせ式＜ゼロメソッド式＞
電源に1.3V水銀電池＜JIS　H-C型＞２個使用　電源チェック装置付

ＥＥ連動範囲 : ASA100のフィルムでEV2.5〜EV18　フィルム感度目盛ASA25〜1600　DIN15〜33

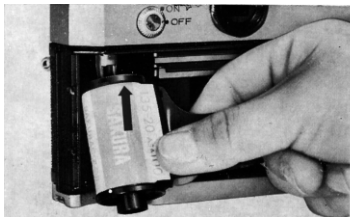
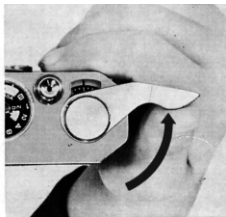
フィルム巻き上げ : —操作によるレバー巻き上げ式でフィルム巻き上げ、シャッターチャージ、ミラーと自動絞りセット　巻き上げ角154°引出し角20°二重露出防止　裏巻き式コニリール使用

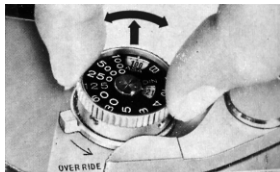
フィルムカウンター : 裏ぶたを開くと自動的にスタートマークにもどるオート・マチックフィルムカウンター順算式

フィルム巻きもどし : 巻きもどしボタンを一度押してクランクで巻きもどす　巻きもどしボタン自動復帰式

大きさ・重量 : F1.8付　148㎜＜幅＞×95㎜＜高さ＞×89㎜＜厚さ＞　950g
F1.4付　148㎜＜幅＞×95㎜＜高さ＞×90㎜＜厚さ＞　1030g
F1.2付　148㎜＜幅＞×95㎜＜高さ＞×96㎜＜厚さ＞　1140g

撮影の順序

◇ あらかじめ、カメラに水銀電池２個を入れておきます。

１ フィルムを入れる。

２フィルムを巻き上げる。

３ フィルム感度を合わせる。

４ シャッター速度を決める。

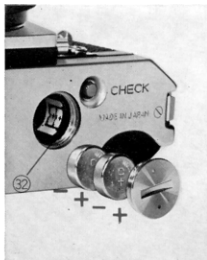
◇ 屋外では1/250秒、室内では1/30秒に合わせておきますと便利です。

5 EEに合わせる。

6 メータースイッチをONにする。

7 ピントを合わせ構図を決める。

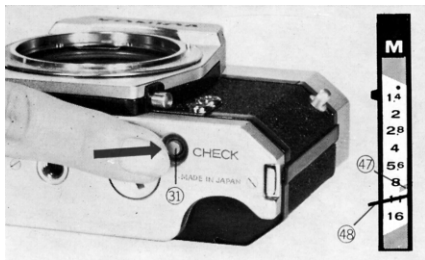
8 シャッターをきる。

水銀電池の入れ方

コニカFTAのCdSメーターは1.3Vの水銀電池２個を電源として働きます。付属の水銀電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いてから、カメラの水銀電池室に入れてください。

1 カメラ水銀電池室㉜のふたを、硬貨などで左＜反時計方向＞に回してはずします。
2 水銀電池を電池室内部のシールに示したとおり＋＜プラス＞を上にして２個重ねて入れてください。
3 電池を入れたらふたを右に回して、しっかりねじ込んでおいてください。

電源のチェック

電源のチェックは次の順序でおこなってください。

1 レンズ交換ボタン⑥を押したまま、レンズ鏡胴の白い部分を持って左＜反時計方向＞に回してはずします。なお、自動絞りレンズ以外ははずす必要はありません。
2 シャッター速度ダイヤル⑩の外側を持ち上げて回し、フィルム感度表示窓＜ASA＞㉓の指標に100を合わせます。
3 シャッター速度ダイヤルを回し、1/125秒に合わせます。

4 カメラ底部の電源チェックボタン㉛を押すと、ファインダー視野内のメーター指針㊽が振れ、電池の容量が十分あれば電源チェックマーク㊼のところか行き過ぎた位置で指針が止まり確認できます。

したがって、以上の３つの赤色＜フィルム感度目盛・シャッター速度目盛・電源チェックボタン＞を合わせるような順序で覚えておいてください。

◇電源のチェックはメータースイッチが、OFF、ONいずれの位置でもおこなえます。

水銀電池の取り扱いについて

◇ 水銀電池は普通のご使用ならば１年以上は十分もちます。電圧は使用経過とともに徐々に下がらないで、寿命がくると急激になくなる性質をもっています。

◇ 電池が消耗し指針の振れがマークに達しない場合には、新しい水銀電池と取り替えてください。

◇ 水銀電池は1.3V＜JIS H-C型＞、ナショナルM.1C＜H-C＞・東芝TH-KC＜HS-C＞、マロリーPX-675、エバレディーEPX-675などを２個使用します。

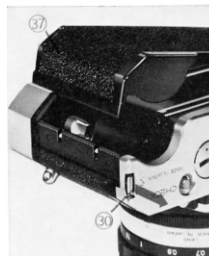
なお、類似形状のもので規定電圧が異なったもの、たとえば銀電池などがありますからまちがわぬようご注意ください。

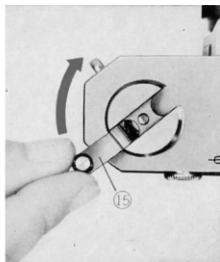
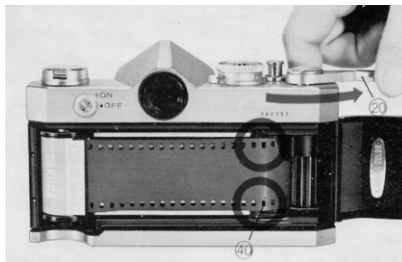
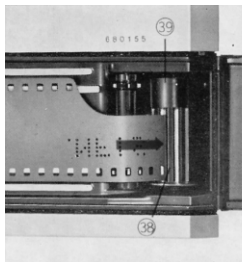
◇ ふだん撮影しないときは、スイッチをOFFにしておくと電池の消耗が防げます。なお、カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取り出して湿気の少ないところに保存してください。

フィルムの入れ方

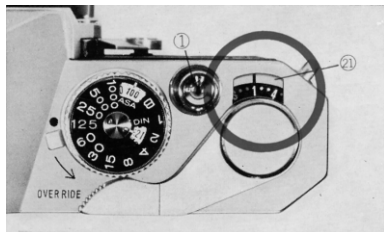
◇ コニカFTAには、パトローネ入り35mmフィルムを使用します。

◇ フィルムを入れるときは直射日光を避け、日陰でおこなってください。日陰のないところでは、ご自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です

◇ フィルムはASA100に統一されたさくらカラーリバーサル100、さくらカラーN-100、コニパンSSを常用なされば、フィルム感度目盛を一度100に合わせた後はいちいち合わせ直す必要がありません。

1 裏ぶた開閉金具㉚を引いて、カメラの裏ぶた㊲を開きます。

2 パトローネの軸の出ているほうをカメラの底部に向けて、パトローネ室㉙に入れます。

3 フィルムの先を巻き取りスプール㊴のフィルム差し込み溝㊳に差し込みます。どの溝でも結構ですから、入れやすい溝に差し込んでください。

4 巻き上げレバー⑳を回してフィルムをスプールに巻きつけ、スプロケット㊵の歯がパーフォレーション＜フィルムの穴＞とかみ合っていることを確認して裏ぶたを閉じます。裏ぶたは指先で押えるとしまります。

5 裏ぶたを閉じたら、巻きもどしクランク⑮を起し、クランクにしるされている矢印の方向に静かに回して、パトローネ内のフィルムのゆるみをなくしておきます。方向をまちがえるとフィルムに故障をしょうじることがありますから、ご注意ください。

６ フィルムを巻き上げシャッターボタン①を押す操作をくり返し、フィルムカウンター㉑の窓にある指標に１をだします。

◇ 巻き上げレバーを止まるところまで回すと、フィルムが１コマ分巻き上げられ、同時にシャッターがチャージされ、ミラーと自動絞りもセットされます。

◇ フィルムカウンターは、巻き上げレバーを操作するごとに一目盛ずつ進み、撮影枚数を示します。撮影が終り裏ぶたを開くと自動的にスタートマーク＜S＞にもどります。

フィルムの巻き上げ状態の確かめ方

フィルムが正しく巻き上げられているときは、巻き上げをおこなうごとに巻きもどしノブ⑯が左＜反時計方向＞に回ります。もし回らなければ、正しく巻き上げられていないのですから、ご注意ください。

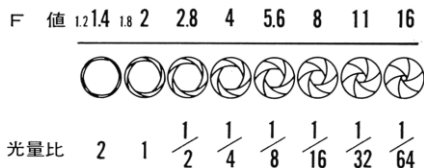
シャッターと絞り

シャッターはフィルムに達する光量を時間的に制御することと、被写体の動きを写し止める働きをします。シャッター速度目盛にはBおよび1～1000までの数字が示してあり、1・2・4・8……1000の数字は、それぞれ１秒・1/2秒・1/4秒・1/8秒……1/1000秒のシャッター速度を表わしています。速度ダイヤルを回して希望の速度目盛を黒丸印の指標に合わせると、その速度でシャッターがきれることになります。

◇ シャッター速度目盛のＢは、１秒以上の長い露出が必要なときに用います。

◇ 色文字の125はストロボ同調の最高速度を示したものです。

◇ シャッター速度目盛は目盛の中間で使うことはできません。必ずクリックで止まった位置に合わせてください。

◇ シャッターボタンを押したままシャッター速度ダイヤルを回さないでください。

絞りはフィルムに達する光量を面積で調節することと、ピントの合う範囲を調節する働きをします。絞りリングには各レンズの開放絞りから最小絞りまでの絞り目盛＜Ｆ値＞が示してあり、各目盛ごとにクリックで止まります。F1.4・２・2.8……と数字が大きくなるほどレンズを通る光量が少なくなります。その関係は上図のようになります。つまりF4はF2.8の半分の光量、F5.6はF4の半分の光量となります。

◇EEマークのついたレンズの絞りは、完全自動絞り機構ですから、シャッターをきった瞬間だけ決められたF値まで絞られ、直ちに開放絞りまで自動的にもどります。

◇絞り口径は連続的に変りますから、各目盛の中間絞りも使えます。

TTL測光／測光方式

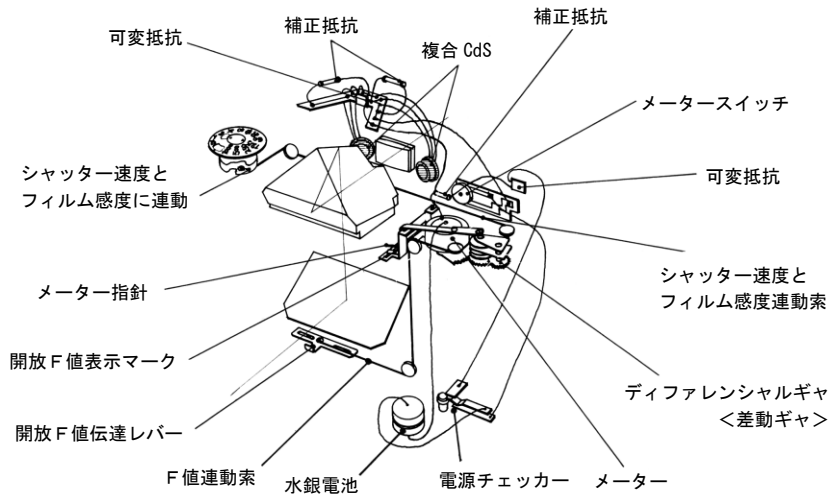
TTL測光と完全自動露出制御機構

コニカFTAは撮影レンズを通過した光を新しく開発された複合CdSで中央重点測光する最も新しい方式と完全自動露出制御機構＜EE方式＞を結び付けたもので、常に正確な露出で効果的な瞬間を迅速にとらえることができます。
完全自動露出制御機構は図に示すように、シャッター速度とフィルム感度の値が連動機構によりメーターに伝達され、EE式完全自動絞りレンズの開放Ｆ値は、Ｆ値伝達レバーから連動機構を経てディファレンシャルギャ＜差動ギャ＞によりメーターに伝えます。同時に視野内メーターに使用レンズの開放Ｆ値表示マークが現われます。
また、アイピースの両側から内側に向けて置かれた２個の複合CdSが、焦点面の中央輝度を重点測光し、その値は補正抵抗や可変抵抗を含む回路からメーターに伝えられメーターを作動させ、自動的に適正絞りが決まり、この時の絞り値を視野内メーターの指針が示します。

測光方式

EEマークのついているEE式完全自動絞りのレンズを使う場合には、開放測光方式で使用します。その他のプリセットやクリック絞りのレンズを使う場合、あるいはエクステンションリング、ベローズ・レンズマウントアダプターなどの使用で自動絞りが使えない場合には、絞り込み測光方式でお使いください。

＜ご注意＞従来のオートレックス用EE式完全自動絞りの各レンズは、FTAにそのままではお使いになれません。特にオートレックス用ヘキサノンAR200mm　F3.5のレンズをFTAにそのままでお使いになるとカメラを損傷します。必ず各レンズ共FTA用レンズ＜F値導入のレンズ＞に改造してからこ使用ください。
簡単に改造できますから、最寄りのサービスステーションにお持ちください。

補正抵抗
補正抵抗
可変抵抗
複合 CdS
メータースイッチ
シャッター速度と
フィルム感度に連動
可変抵抗
シャッター速度と
フィルム感度連動索
メーター指針
開放Ｆ値表示マーク
ディファレンシャルギャ
<差動ギャ>
開放Ｆ値伝達レバー
Ｆ値連動索
水銀電池
電源チェッカー
メーター

視野内メーターの見方

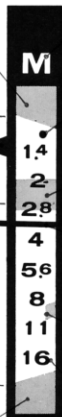
適正露出範囲：メーター指針㊽が適正露出範囲＜使用レンズの絞り目盛の範囲＞にあればEE撮影ができることを示しています。そして指針はそのとき働く絞り値を示しています。

警告マークと開放Ｆ値表示マーク：視野内メーターの上側にある赤色の部分がF1.2レンズの露出不足警告マークです。F1.2以外のレンズでは、赤い開放Ｆ値表示マーク㊾が使用レンズの開放Ｆ値を示しますから、その目盛より表示マーク側に指針があると露出不足になります。下側の警告マーク㊺は露出オーバーを示す警告マークで、各レンズとも指針がこのマークにかかったときは適正露出が得られません。

電源チェックマーク：電源チェックマーク㊼は、CdSメーターの電源である水銀電池の容量をチェックするとき使います。

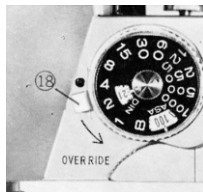
絞り込み測光用定点：絞り込み測光では、使用フィルムに対して絞りとシャッター速度が適正露出を与えるような組合わせのとき、指針は定点㊹に合います。

マニュアル表示マーク：マニュアル表示マーク㊿のＭは、EE式完全自動絞りレンズで絞りリング⑭のEEマーク⑫が指標に合っていないことを示すマークです。したがって、EE撮影時以外は常にＭの文字が見え、このときはマニュアル撮影となります。

㊸F1.2レンズ用
露出不足警告マーク
㊿マニュアル表示マーク
㊹絞り込み
測光用定点
M
F1.2目盛
1.4
㊾開放F値表示マーク
2
2.8
適正露出範囲F1.2のとき
F2.8のとき
4
㊽メーター指針
5.6
8
11
16
㊼電源チェックマーク
㊺露出オーバー警告マーク
㊻絞り目盛

メーターの連動範囲

メーターで測光できる明るさの範囲が連動範囲で、使用フィルムの感度によって変ります。開放測光方式では、使用するレンズの開放Ｆ値によっても変ってきます。**フィルム感度がASA100の場合には、**

F1.2付でEV2.5＜F1.2 1/4秒＞～EV18＜F16 1/1000秒＞、
F1.4付でEV3　＜F1.4 1/4秒＞～EV18＜F16 1/1000秒＞、
F1.8付でEV3.7＜F1.8 1/4秒＞～EV18＜F16 1/1000秒＞、
までが連動範囲になります。しかしマニュアル絞りレンズによる絞り込み測光方式では、F2.8付でEV5＜F2.8 1/4秒＞～EV19＜F22 1/1000秒＞となります。

フィルム感度によるメーターの連動範囲は表の太線で囲んだ内側で、外側が連動しない範囲です。
連動範囲外にかかるときはシャッター速度ダイヤルがストップして回せません。EE撮影以外でも、このストップを越えてシャッター速度を合わせたいときは、オーバーライドレバー⑱を矢印の方向に押しながらシャッター速度ダイヤルを回してください。連動範囲外でフィルム感度およびシャッター速度を変えるとメーター指針が動いて絞り目盛を指し連動しているように見えることがあります。

メーター連動範囲一覧表

ASA	25	<32> <40>	50	<64> <80> 100	<125> <160> 200	<260> <320> 400	<500> <640> 800	<1000> <1250> 1600
シャッター速度								B
							B	1
						B	1	2
					B	1	2	4
				B	1	2	4	8
			B	1	2	4	8	15
		B	1	2	4	8	15	30
	B	1	2	4	8	15	30	60
	1	2	4	8	15	30	60	125
	2	4	8	15	30	60	125	250
	4	8	15	30	60	125	250	500
	8	15	30	60	125	250	500	1000
	15	30	60	125	250	500	1000	
	30	60	125	250	500	1000		
	60	125	250	500	1000			
	125	250	500	1000				
	250	500	1000					
	500	1000						
	1000							

EE撮影 ＜開放測光＞

開放測光方式

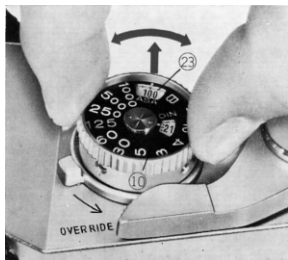
EE撮影 ＜開放測光＞

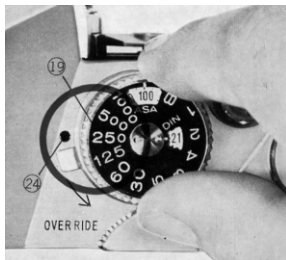
EEマークのついたEE式完全自動絞りのレンズを使う場合には、絞りが開放の明るいファインダーのままの測光方法でEE＜エレクトリック・アイ＞撮影ができます。

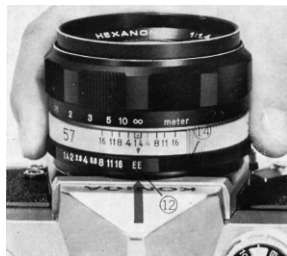
◇ シャッター速度ダイヤルの上にあるフィルム感度表示窓のASAとDIN目盛は、どちらもフィルムが光に感じる度合を示す単位です。

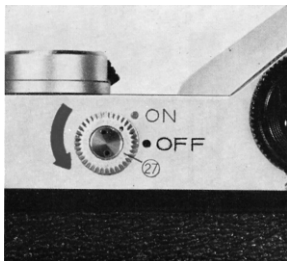
◇ カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。 ▷

◇ フィルム感度＜ASA＞は、フィルムの外箱や使用説明書に書いてあります。

◇ フィルム感度は正しく合わせてください。まちがえて合わせると適正露出が得られませんからご注意ください。

1 フィルム感度＜ASA＞を合わせます。

シャッター速度ダイヤル⑩の外側を持ち上げて回し、フィルム感度表示窓＜ASA＞㉓の指標に使用フィルムの感度に相当する目盛を合わせます。目盛に正しく合った位置で落ち込んで固定されます。

2 シャッター速度を決めます。

シャッター速度ダイヤル⑩を回し、被写体に応じたシャッター速度目盛⑲を指標㉔に合わせてください。シャッター速度を屋外では1/250秒、室内では1/30秒に合わせておきますと便利です。

3 絞りリングをEEに合わせます。

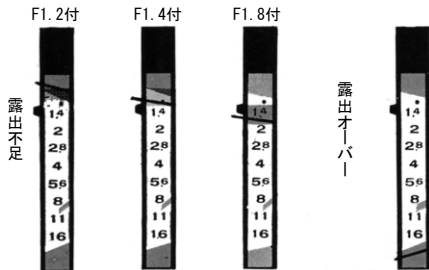
絞りリング⑭を回してEEマーク⑫を指標に合わせてください。
この位置にクリックがあり確実に固定されます。

4 メーターのスイッチをONに合わせます。

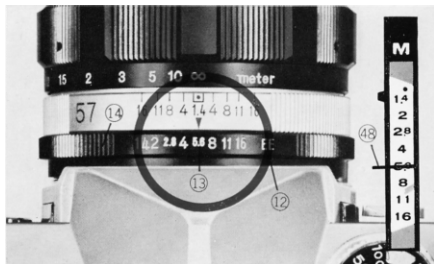
メーターのスイッチ㉗の・をONに合わせてください。スイッチが入ってメーターが働きます。

◇ふだん撮影をしないときは、必ずスイッチをOFFに合わせておいてください。

5 カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、視野内メーターを見てください。

メーター指針㊽が適正露出範囲＜使用レンズの絞り目盛の範囲＞にあれば正しい露出が得られます。ピントを合わせ構図を決めてそのままシャッターボタン①を押せばEE撮影ができます。

開放測光上の要点

メータ指針が露出不足を示したときは、シャッター速度を遅くしてください。また指針が露出オーバーを示したときは、シャッター速度を速いほうに変えてください。そして指針が適正露出範囲に入ればEE撮影ができます。シャッター速度ダイヤルをいっぱいに回しても、指針が適正露出範囲に来ないときはEE撮影ができません。

◇ 撮影目的によって絞りを先に決めたいときは、視野内メーターを見ながらシャッター速度ダイヤルを回し、希望の絞り目盛にメーター指針を合わせます。シャッター速度は必ずクリック位置で使用してください。

EE機構をはずして使うときには

特別な目的で露出を加減して撮影したいときは、絞りリング⑭をEEマーク⑫からはずしてマニュアル絞り目盛⑬によって露出を決めます。このとき視野内メーターはフィルム感度、シャッター速度、レンズの開放Ｆ値に連動するメーターとして働き、メーター指針㊽は適正絞り目盛を示します。これを読みとって絞りリング上のマニュアル絞り目盛を決めてください。

逆光線撮影の露出について

コニカFTAのCdSメーターはTTL方式ですから、画角以外の影響を受けませんので、どういう場合にも使用フィルムの感度目盛を正しくセットしたままEE撮影してもさしつかえありませんが、次のような場合に限りフィルム感度目盛を修正された方がよい結果が得られます。

逆光線撮影の場合

非常に明るい背景の人物や逆光線撮影のときは、背景の光が強いために実際に写したいものが露出不足になることがあります。こんな条件のときは、半分下げた数値の感度——たとえば使用フィルムがASA100なら、ASA50——に目盛を合わせ直して撮影してください。

被写体だけが明るく周囲が暗い場合

人物だけが明るく背景が極端に暗いような場合や、薄暗い室内から周囲を含めて外を写すようなときは、周囲の暗さに影響されて実際に写したいものが露出オーバーになることがあります。
こんな条件のときは、２倍に上げた数値の感度——たとえば使用フィルムがASA100ならASA200——に目盛を合わせ直して撮影してください。

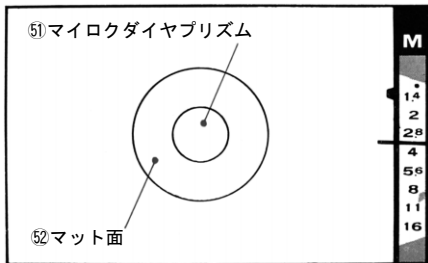
◇＜ご注意＞これらの撮影がすんだら、必ず元の感度目盛にもどしておくことを忘れないでください。

カメラの構え方

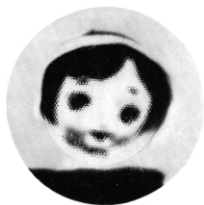
カメラはしっかり構えて

よいピントの写真を写すためには、シャッターボタンを押す際カメラぶれを起さぬよう確実に構えることがたいせつです。カメラは両手でしっかり持って手、鼻、ひたいなどでうまく顔に密着させて安定をはかり、指の先でシャッターボタンを静かに押してシャッターをきってください。

縦位置のカメラの構え方は、横位置の写し方よりもカメラの保持がむずかしいようですが、被写体によっては縦位置で写すこともありますから、練習してよく慣れてください。低速度シャッターで写すときは、手持ち撮影ではカメラぶれしますから、三脚を使用するか固定した台の上にカメラを安定させてください。

ピントの合わせ方

ピント合わせはフオーカスリング⑪を回し、ファインダー中央のマイクロダイヤプリズム⑤①でおこないます。ピントが合っていないときはマイクロダイヤプリズム上の像がギザギザに見え、ピントが合ったときは像がハッキリし、同時に周囲の像もハッキリ見えます。

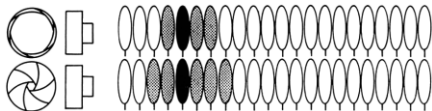
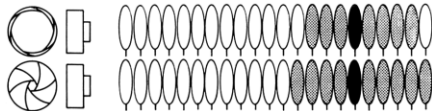
長い焦点距離の交換レンズを使うときは、マイクロダイヤプリズムが見にくくなりますから、マット面⑤②でピント合わせをしてください。またピントを正確に合わせるためには、ファインダーの視度を正しくする必要がありますから、近視または遠視の方には視度調整レンズが用意されております。

ピントの合わせ方

ピントが合っていないとき

ピントが合ったとき

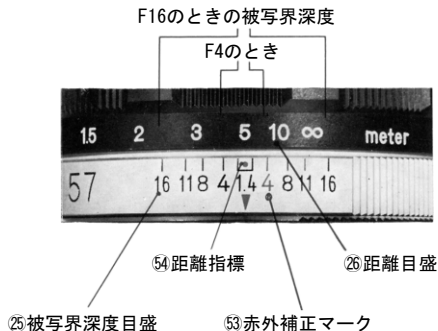
ファインダーは一眼レフ式実像ファインダーですから、遠距離でも近距離でもレンズを交換した場合にもファインダーに見える像そのままが撮影範囲になります。

被写界深度

近距離にピントを合わせた場合

遠距離にピントを合わせた場合

レンズはある距離の被写体にピントを合わせたとき、その被写体だけでなく、その前後においても十分鮮鋭に写る範囲があります。この鮮鋭に写る範囲をレンズの被写界深度といって、次のような性質をもっています。

1. 絞り値が大きいほど深くなります。
2. 遠距離にピントを合わせたときほど深くなります。
3. ピントを合わせた被写体の前方よりも後方が深くなります。
4. 焦点距離の短いレンズほど深くなります。

被写界深度は被写界深度目盛とマニュアル絞りの２つの方法によって確認することができます。詳しくは被写界深度表をご覧ください。

被写界深度

被写界深度目盛による場合

被写界深度目盛㉕には距離指標㉔を中心にして両側に絞りと同じ目盛がついています。ピントを合わせた後これを見ると、使用する絞り目盛に囲まれた範囲が被写界深度になります。たとえば、F1.4 57㎜のレンズでピントを合わせた被写体までの距離が５ｍであったとすると、F4のときには４ｍから７ｍまでが、F16にすると2.5mから∞＜無限遠＞までが被写界深度に入ることがわかります。

赤外補正マーク／距離基準マーク

マニュアル絞りによる場合

完全自動絞りのレンズは常に開放絞りになっています。被写界深度をファインダーの中で確認したいときは、絞りリング⑭をEEマーク⑫からはずしマニュアル絞り目盛⑬を決めて、マニュアル絞りボタン④を押しながらファインダーをのぞくと見ることができます。

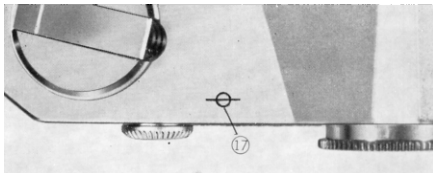
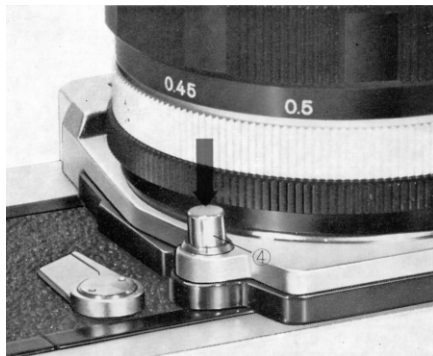
赤外補正マーク

赤外フィルムで赤色系フィルターを用いた赤外線写真撮影の場合には、普通のピントを合わせた後、距離指標54で距離目盛㉖を読み、その目盛を赤外補正マーク53の赤線までずらして撮影してください。

距離基準マーク

レンズの距離目盛㉖は、フィルム位置を示した距離基準マーク＜⊖＞⑰からの距離が表示してあります。

被写界深度表

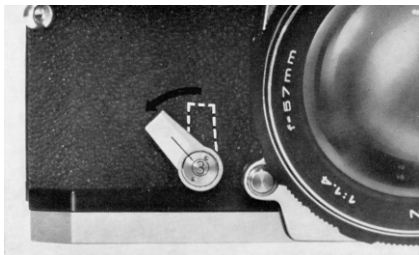
被写界深度表 ＜F1.2　58mm・F1.4　57mm＞

許容錯乱円直径3/100 mm ＜単位m＞

距離 / 絞り	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
F1.2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.70	0.79~0.80	0.98~1.01	1.18~1.21	1.47~1.53	1.94~2.05	2.87~3.13	4.65~5.39	8.69~11.77	65.29~∞
F1.4	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.70	0.79~0.80	0.98~1.01	1.17~1.22	1.46~1.53	1.93~2.06	2.85~3.15	4.60~5.47	8.51~12.13	55.98~∞
F 2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.70	0.78~0.81	0.97~1.02	1.17~1.23	1.45~1.55	1.91~2.09	2.80~3.23	4.45~5.70	8.00~13.35	39.21~∞
F2.8	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.68~0.71	0.78~0.81	0.97~1.02	1.15~1.24	1.43~1.57	1.87~2.13	2.72~3.33	4.26~6.04	7.41~15.43	28.04~∞
F 4	0.44~0.45	0.49~0.50	0.58~0.61	0.68~0.71	0.77~0.82	0.96~1.04	1.14~1.26	1.40~1.60	1.83~2.20	2.62~3.50	4.01~6.63	6.67~20.14	19.65~∞
F5.6	0.44~0.45	0.48~0.51	0.58~0.61	0.67~0.72	0.76~0.83	0.94~1.06	1.12~1.29	1.37~1.65	1.77~2.29	2.50~3.75	3.72~7.64	5.89~34.06	14.07~∞
F 8	0.43~0.46	0.48~0.51	0.57~0.62	0.66~0.73	0.75~0.85	0.92~1.09	1.08~1.33	1.32~1.73	1.69~2.45	2.33~4.22	3.36~9.91	5.02~∞	9.88~∞
F 11	0.43~0.46	0.47~0.52	0.56~0.63	0.65~0.75	0.73~0.87	0.89~1.12	1.05~1.39	1.27~1.84	1.60~2.69	2.16~4.99	3.00~15.84	4.23~∞	7.21~∞
F 16	0.42~0.47	0.47~0.53	0.55~0.65	0.63~0.78	0.71~0.91	0.86~1.20	0.99~1.51	1.18~2.05	1.46~3.20	1.92~7.21	2.54~∞	3.37~∞	4.99~∞

被写界深度表 ＜F1.8　52mm＞

許容錯乱円直径3/100 mm ＜単位m＞

距離 / 絞り	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
F1.8	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.69~0.71	0.78~0.81	0.97~1.02	1.16~1.23	1.44~1.55	1.90~2.10	2.78~3.25	4.40~5.78	7.83~13.83	35.57~∞
F 2	0.44~0.45	0.49~0.50	0.59~0.60	0.68~0.71	0.78~0.81	0.97~1.02	1.16~1.23	1.44~1.56	1.89~2.11	2.76~3.28	4.36~5.86	7.70~14.27	32.91~∞
F2.8	0.44~0.45	0.49~0.50	0.58~0.61	0.68~0.71	0.77~0.82	0.96~1.03	1.15~1.25	1.42~1.58	1.85~2.16	2.68~3.40	4.15~6.29	7.05~17.24	23.53~∞
F 4	0.44~0.45	0.49~0.50	0.58~0.61	0.67~0.72	0.77~0.83	0.95~1.05	1.13~1.27	1.38~1.63	1.80~2.24	2.56~3.62	3.87~7.08	6.27~25.07	16.50~∞
F5.6	0.44~0.46	0.48~0.51	0.57~0.62	0.67~0.73	0.76~0.84	0.93~1.07	1.10~1.31	1.35~1.69	1.73~2.36	2.42~3.95	3.55~8.52	5.46~63.97	11.81~∞
F 8	0.43~0.46	0.48~0.52	0.57~0.63	0.65~0.74	0.74~0.86	0.91~1.11	1.06~1.37	1.29~1.78	1.64~2.57	2.24~4.58	3.16~12.27	4.58~∞	8.30~∞
F 11	0.43~0.47	0.47~0.52	0.56~0.64	0.64~0.76	0.72~0.89	0.88~1.15	1.02~1.44	1.23~1.92	1.54~2.88	2.05~5.74	2.78~27.58	3.82~∞	6.06~∞
F 16	0.42~0.48	0.46~0.54	0.54~0.66	0.62~0.80	0.69~0.94	0.83~1.25	0.96~1.60	1.14~2.22	1.39~3.64	1.79~10.01	2.33~∞	2.99~∞	4.19~∞

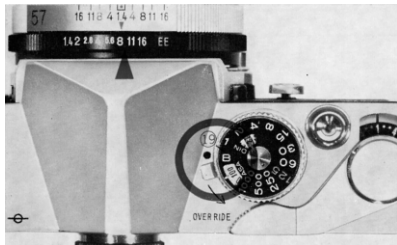
セルフタイマーの使い方

コニカFTAのセルフタイマーは、EE撮影、フラッシュ撮影のいずれの場合でも使用できます。ご自分もいっしょに記念撮影するときにお使いください。
巻き上げレバー⑳を操作してからセルフタイマーレバー③をいっぱいに回してセットし＜この逆の順序でもよい＞シャッターボタン①を押すとセルフタイマーが働き、約10秒たってシャッターがきれます。

◇＜**ご注意**＞セルフタイマーによるEE撮影では、シャッターボタンを押す際アイピースから強い光線が入りますと、露出に影響を及ぼします。ファインダーをのぞいたまま押す方法か、アイピースを手でおおって押す方法をとってください。
なお、ファインダーから目をはなしシャッターボタンを押すとき、カメラの前側に立つとご自分の陰に対する露出になってしまいますから注意してください。

◇セルフタイマーは記念撮影のほか、接写などのカメラぶれ防止に利用しても効果があります。

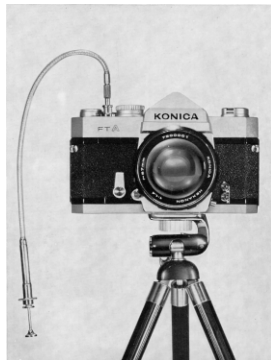
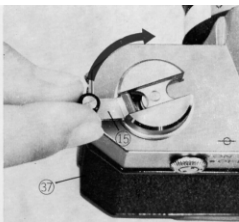
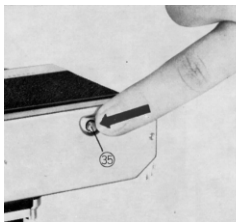
◇セルフタイマーレバーのセット角を少なくして、シャッターがきれるまでの時間を短くすることもできます。

Ｂ露出

Ｂ＜バルブ＞露出について

シャッター速度目盛⑲をＢに合わせてシャッターをきると、バルブ露出といって、シャッターボタンを押している間だけシャッターが開き指を離すと閉じるので１秒以上の長い露出の撮影に用います。

◇ シャッター速度ダイヤルがＢまで回らないときは、オーバーライドレバーを矢印の方向に押しながら回してください。

◇ Ｂ露出はEEでは使用できませんから、絞りリングをEEマークからはずし、マニュアル絞り目盛を用います。

◇ 三脚を使用するときは、カメラ底部三脚ねじに取り付けます。ケーブルレリーズは専用のコニカケーブルレリーズのご使用をおすすめします。

フィルムの巻きもどし方

カメラに入れたフィルムのきまった枚数を撮影し終ったら、フィルムを元のパトローネに巻きもどします。巻きもどしをしないで裏ぶたを開けてしまうと、フィルムは光に当って全部だめになってしまいますからご注意ください。

◇ フィルムが終りになった最後の巻き上げで、巻き上げレバーが途中で動かなくなったときは、無理に巻き上げないで、レバーを逆に押しもどしてください。

◇ カメラからパトローネを取り出すときは、日陰でおこなってください。

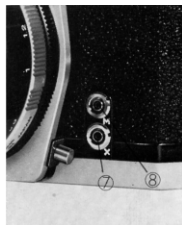
1 巻きもどしボタン㉟を押してください。ボタンは一度押せばひっこんだままになります。

2 巻きもどしクランク⑮を起し、クランクにしるされている矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻きもどされてゆきます。

3 巻きもどしの手ごたえが急に軽くなったとき巻きもどし完了です。裏ぶた㊲を開きパトローネを取り出します。

◇ ひっこんだ巻きもどしボタンは、巻き上げレバーを操作することにより、自動的に元の位置にもどります。

フラッシュ撮影

EE撮影ができない夜間や暗い室内での撮影、あるいは昼間でも補助光として、フラッシュバルブやストロボを使用してフラッシュ撮影をしてください。

フラッシュ撮影には、フラッシュガンや小型ストロボなどをファインダーアイピース部に取り付けられるアクセサリークリップⅢをご使用ください。カメラにはMとXの二種類のフラッシュ接続ソケットがありますから、M級、FP級のバルブを使用するときには、プラグをM接点のソケット⑧に差し込み、ストロボ、F級のバルブはX接点のソケット⑦を使います。

◇ コニカFTAのM接点はタイムラグを18ミリセコンドに調整してあります。

コニカFTAフラッシュ同調表

○印……同調　×印……使用不可能

接点	シャッター速度 / フラッシュバルブ	B	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000
M	M　級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	F　P　級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X	ストロボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
	F　級	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×

◇FM級＜AG-1、AG-1B＞のフラッシュバルブは、M接点をお使いください。

フラッシュ撮影の露出について

フラッシュ撮影では、EEは使用できませんからマニュアル絞り目盛⑬によって露出を決めます。絞り値＜Ｆ値＞はフラッシュバルブ、あるいはストロボのガイドナンバーを距離で割って求めます。
たとえば、M級バルブでフィルム感度とシャッター速度に対するガイドナンバーが27の場合、撮影距離が３ｍのとき、27÷３＝９となり絞り値は約８となります。

各バルブとストロボに同調するシャッター速度は表を参照してください。

◇ガイドナンバーはフラッシュバルブの包装ケースに示されていますが、使用するフラッシュガンの種類によっては、ガイド表が付いています。このときはガイド表のほうを見てください。

レンズの交換

レンズを取りはずすには

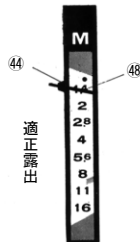
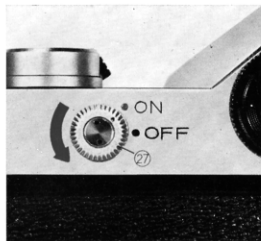
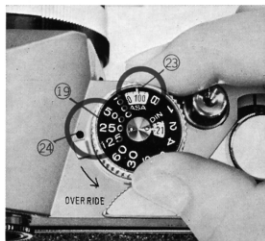
レンズ交換ボタン⑥を押しながら、レンズ鏡胴の白いリングを持って左＜反時計方向＞に回し、レンズとボデーの赤ポチが合った位置で引き出します。

レンズを取り付けるには

レンズ鏡胴の赤ポチとボデーの取付け指標＜赤ポチ＞⑨を合わせて正しくはめ込み、レンズ鏡胴の白いリングを持って右＜時計方向＞に静かに止まるまで回してください。

＜ご注意＞

◇ レンズをはずしたときボデー内部はさわらないでください。
◇ はずしたボデーやレンズ鏡胴にゴミが入らないようにし、レンズ面にはキズや指紋を付けないようにしてください。
◇ レンズを取り付けるときには、必ずレンズ側とボデー側の赤ポチが合う位置ではめ込むようにしてください。

絞り込み測光方式

マニュアル絞り撮影<絞り込み測光>

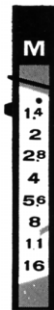
プリセットやクリック絞りのレンズを使う場合、あるいはエクステンションリング、ベローズ、レンズマウントアダプターなどの使用で自動絞りが使えない場合には、絞り込み測光方式で露出を決めます。

1 フィルム感度<ASA>を合わせます。
フィルム感度表示窓<ASA>㉓の指標に使用フィルムの感度に相当する目盛を合わせてください。

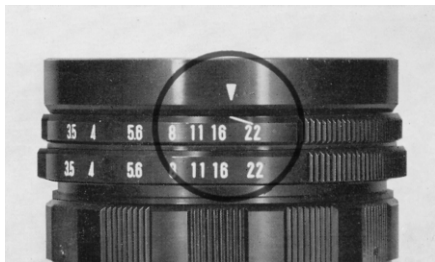
2 シャッター速度を決めます。
シャッター速度ダイヤル⑩を回し、被写体に応じたシャッター速度目盛⑲を指標㉔に合わせてください。

3 メーターのスイッチをONに合わせます。
メータースイッチ㉗をONに合わせてください。

4 露出を決めます。
カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、視野内メーターの定点㊹にメーター指針㊽が合うように絞りリングを回して露出を決めます。指針が定点に合えば適正露出が得られます。

絞り込み測光上の要点

絞り込み測光では、視野内メーターの絞り目盛は直接関係ありません。絞りリングの調節だけではメーター指針が定点に合わないときはシャッター速度を変えてください。
指針が定点より上にある場合は露出不足ですからシャッター速度を遅くし、下側でしたらシャッター速度を速いほうに変えてください。

◇ ＜**ご注意**＞逆光線撮影あるいは絞りを絞って接写するとき、アイピースから光線が入らぬよう注意して露出を決めてください。

◇ 顕微鏡撮影のとき絞りがありませんから、シャッター速度か光源の明るさで調節してください。

手動プリセットレンズを使うときは

手動プリセット絞りのレンズを使用する場合には、あらかじめプリセット絞りリングを最小絞り目盛にセットしておき、絞りリングを回し露出を決めます。また、動体等で敏速な撮影操作を行う場合には、プリセット・絞りリングと絞りリングをそろえて回して決めることもできます。